

見附市における全国学力・学習状況調査について（その3）

～「クロス集計」の分析結果から～

見附市教育委員会

I 生活リズム・規則正しい生活と正答率との関係から

- 1 「朝食を毎日食べていますか」について「食べている」と答えた児童生徒の正答率は、「食べていない」と答えた児童生徒の正答率よりも圧倒的に高くなっています。特に、小学校の算数B、中学校の国語Bにおいて、30ポイント以上高くなっています。
- 2 「普段（月～金曜日）、何時頃に起きますか」について「6時00分から6時30分までに起きている」と答えた児童生徒の正答率は、「7時00分から7時30分や7時30分から8時00分に起きている」と答えた児童生徒の正答率よりも高くなっています。特に、小学校、中学校の国語Bにおいて、差が大きくなっています。
- 3 「普段（月～金曜日）、どれくらいの時間、睡眠をとることが多いですか」について、小学校で「8時間から9時間睡眠をとっている」と答えた児童の正答率、中学校で「7時間から8時間睡眠をとっている」と答えた生徒の正答率は、小学校・中学校ともに「睡眠は6時間未満である」と答えた児童生徒の正答率よりも、5ポイントから20ポイント近く高くなっています。

「その2」でお知らせしましたように、見附市の児童生徒は、小学校、中学校ともに、国や県の平均と比べて、概ね良好な規則正しい生活をしています。「食育」の取組や、「早寝、早起き、朝ごはん」運動の取組等を進めてきた成果であり、このことによって生活リズムの確立が進んでいることが、学習への取組にもよい影響を及ぼしているものと考えられます。今後も、生活リズムの向上、規則正しい生活づくりを充実させていくことが大切だと考えています。

II 家庭での過ごし方・時間の使い方と正答率との関係から

- 1 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、どれくらい勉強しますか」について、小学校、中学校ともに「30分未満」と答えた児童生徒の正答率は、「1時間以上」「2時間以上」と答えた児童生徒の正答率よりも低くなっています。特に、小学校の国語Bでは、20ポイントもの差がありました。
- 2 「読書が好きですか」について、小学校、中学校ともに「好き」と答えた児童生徒の正答率は、「好きではない」と答えた児童生徒の正答率よりも、かなり高くなっています。小学校、中学校ともに、特に国語においてその差が顕著で、国語Aでは10ポイント以上、国語Bでは20ポイント近くの差がありました。
- 3 「普段（月～金曜日）、どれくらい読書をしますか」について、「30分以上」と答えた児童生徒の正答率は、「全くしない」と答えた児童生徒の正答率よりも、かなり高くなっています。特に、小学校の国語においてその差が顕著で、国語A、国語Bともに10ポイント以上の差がありました。

4 「普段（月～金曜日）、どれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDをみますか」について、特に中学校においてその差が顕著で、「1時間未満」と答えた生徒の正答率は、「3時間以上」や「4時間以上」と答えた生徒の正答率よりも、かなり高くなっていました。特に、国語B、数学Bでは、10ポイント以上の差がありました。

5 「普段（月～金曜日）、どれくらいの時間、テレビゲームをしますか」について、小学校、中学校ともに、「全くしない」と答えた児童生徒の正答率は、「3時間以上」と答えた児童生徒の正答率よりも、かなり高くなっています。小学校では7ポイントから14ポイント、中学校では全て15ポイント程度、特に国語Bでは20ポイント近くの差がありました。

「その2」でお知らせしましたように、家庭での過ごし方・時間の使い方につきましては、保護者の皆様とともに考えてまいりたいと思っております。

クロス集計の結果からも、家庭学習の時間や内容の充実している児童生徒、読書の時間の確保がなされている児童生徒の正答率が高くなっていることがわかりました。逆に、テレビやビデオの時間が長い児童生徒、テレビゲームの時間の長い児童生徒の正答率が、かなり低くなっていることもわかりました。

これらに加えて、「家の人と学校での出来事について話をしていますか」について、「している」と答えた児童生徒の正答率は、「していない」と答えた児童生徒の正答率よりも、かなり高くなっていることも含めて考えますと、家庭での過ごし方・時間の使い方につきましては、次の点を再確認したいと思います。

- テレビやビデオ・DVDの視聴時間を減らす。
- テレビゲームの時間を減らす。できればしないようにする。
- 読書の時間をできるだけ確保する。
- 家庭学習の時間を、さらに伸ばしていくようにする。
- 家族で会話をする時間をつくるようにする。

Ⅲ 人間関係づくりと正答率との関係から

1 「家の手伝いをしていますか」について、「している」と答えた児童生徒の正答率は、「していない」と答えた児童生徒の正答率よりも高くなっています。特に、小学校、中学校ともに国語B、算数・数学Bで、差が大きく出ていました。

2 「近所の人にあったときは、あいさつをしていますか」について、「している」と答えた児童生徒の正答率は、「していない」と答えた児童生徒の正答率よりもかなり高くなっています。小学校では、5ポイントから10ポイント程の差があり、中学校では、10ポイントから20ポイント以上の差がありました。

上記のことから、児童生徒に対して、家庭生活における役割をきちんとつくってやり、家族の一員としての役割を果たすよう援助していくことが大切だと考えております。また、地域の一員としてのつながりを深めていくことも、重要なことだと考えております。

今後、礼儀やマナー等を含めて、良好な人間関係をつくることについて、家庭、地域と皆さんとともに充実させてまいりたいと考えております。